

○雨が続く時期に気をつけたい病害

今年梅雨入りが平年より20日(去年より6日)早いです！病害が進行すると収量・品質低下の原因になります。病害が蔓延していないか適宜圃場をチェックして対策しましょう！

いもち病

葉いもち 葉に葉脈に沿ってひし形の病斑が出る。黒く周辺の色がはっきりしないものは伝染力が強く、穂いもちの感染源になるため早めの対策を！



穂いもち

多発生が予想される場合、「出穂2週間前の粒剤施用、穂揃期の液剤か粉剤の散布」または「穂ばらみ期と穂揃期の液剤、粉剤による2回散布」を行う。



稲こうじ病



土壌伝染性の病害で、籾にのみ発生。晩期追肥した圃場や山際の日照不足になる圃場で多い。また、圃場に落ちた胞子が翌年の伝染源となるため、前年多かった方は要注意！

それぞれ病害の防除適期があるので、**確実に適期に散布しましょう！**

↓病害対策用の薬剤一例

病害	薬剤	使用量(10aあたり)	散布時期	使用回数	注意点
いもち病	トリスタークル粉剤DL	3~4kg	穂ばらみ期~穂揃い期 (収穫14日前まで)	2回以内	治療効果あり
	ビームエイトスタークルゾル	60~150L (1000倍希釈)	穂ばらみ期~穂揃い期 (収穫7日前まで)	3回以内	予防効果のみ、必ず出穂期前まで
	コラトップ粒剤5	3~4kg	葉いもち→初発10日前~初発時 穂いもち→出穂30日前~5日前まで	2回以内	
稲こうじ病	ドイツボルドーA	60~150L (2000倍希釈)	出穂20~10日前まで	-	-
	Zボルドー粉剤DL	3~4kg	出穂10日前まで	-	

